

部署
改定日
作成日

1 (活動アセスメント)

① 法規制その他の要求事項に変更があった時 ⑥ 組織、人の変更があった時
② 新たな活動を計画した時(新規設備の導入等) ⑦ 労働災害の発生した時
③ 設備、施設の設置や構造を変更した時 ⑧ 社長、安全・衛生管理者、安衛管理責任者から
④ 工程変更された時 ⑨ 見直し指示の対策を実施した時
⑤ 原材料の変更及び新規化学物質の使用時 ⑩ 安全防護の対策を実施した時

承認	GL	
----	----	--

A 取扱物質等 (原材料、エネルギー等)	B 活動		C 作業環境 行為等			D 危険源 有害要因	E 事故の型	F 対応法規	G 評価点				H 評価値	
	工 程	設備・装置		定常時	非常時				緊急時	危害の大きさ	危険接近程度	回避の確率		労働者の被害
容器 ドラム 缶	組原料受入 一時保管	タンク ドラム ローリー		○	○	○	受入時、粗原料漏洩の可能性 帯電による引火、火災	有害物との接触 爆発	労働安全衛生法 消防法	3	4	1	48	
	↓	↓												
	蒸留釜仕込	蒸留釜		○		○	バルブの開め忘れによる漏洩	爆発	消防法	3	3	1	45	
	↓	↓												
	蒸留前処理	G塔(シナー前処理)		○		○	操作ミスによる漏洩の可能性	火災	消防法	3	3	1	45	
	↓	↓												
	タンク受	クッションタンク		○		○	バルブの開め忘れによる漏洩	火災	消防法	4	3	1	57	
	↓	↓												
	釜残抜き	コンテナ ドラム		○	○	○	蒸留残さ抜き取り時、蒸気吸入 ドラム抜き取り時、目に入る 釜残抜き取り時、溶剤に引火 高温溶剤による火傷	有害物との接触 有害物との接触 火災 火傷	労働安全衛生法 労働安全衛生法 消防法 消防法	4	3	1	57	
	↓	↓												
	精溜	配合槽 H.J精溜塔 コンデンサー		○		○	溶剤との接触 バルブの開め忘れによる漏洩	有害物との接触 爆発	労働安全衛生法 消防法	3	4	1	48	
	↓	↓												
	タンク受	タンク		○		○								
	↓	↓												
	脱水塔	真空ポンプ 脱水塔		○		○	脱水剤抜き換え時、蒸気吸入 脱水時、蒸気吸入	有害物との接触 有害物との接触	労働安全衛生法 労働安全衛生法	4	2	1	54	
	↓	↓												
タンク貯蔵	タンク 地下タンク		○		○	添加剤投入時、蒸気吸入	有害物との接触 有害物との接触	労働安全衛生法 労働安全衛生法	3	4	1	48		
↓	↓													
送液			○		○	配管・ポンプからの漏洩	爆発	消防法	4	2	1	54		
↓	↓													
配合	配合槽		○		○	添加剤との接触	有害物との接触	労働安全衛生法	1	4	1	24		
↓	↓													
充填	充填機 ローリー		○		○	充填時、溶剤蒸気吸入	有害物との接触	労働安全衛生法	1	4	1	24		
↓	↓													
製品移動	リフト		○		○	リフトによる事故	交通事故(その他)	道路交通法	2	3	1	33		
↓	↓													
出荷			○		○	補修及び新設工事の際に火気を使用する場合に火花が溶剤に引き起こる燃焼・火災	燃焼・火災	消防法	3	3	1	53		
↓	↓													
工事	設備及び配管の補修・新設など		○		○	補修及び新設工事の際に火気を使用する場合に火花が溶剤に引き起こる燃焼・火災	燃焼・火災	消防法	3	3	1	53		

$$\text{リスク評価値} = (\text{危害の大きさ}) \times 12 + (\text{危険源接近頻度} \times \text{回避の確率}) \times 3 \quad \text{労災事例: 初年度} = 0, 1\text{年前} = 1, 2\text{年前} = 2, 3\text{年前} = 3, 4\text{年前} = 4$$

樣式改訂:

設備・作業のリスク評価表(兼報告書)

(個別/まとめ)

設備・工程名	
作業名称	
管理部署名	

定 期	安全衛生推進計画に基づき実施		
不定期	新規施設及び設備の導入		システム監査等の指摘
	新規材料及び化学物質の導入		トータル(災害・ヒヤリハット)発生
	作業工程の変更・設備の改造		安全パトロールの指摘
	法規制及びその他の取組め事項の改定		その他()

リスク調査年月日	2011 年 6 月 28 日	対症後診年月日	2011 年 6 月 28 日
リスク調査チーム	安全衛生推進リーダー： 安全衛生推進員： 作業従事者： 助産師(有識者)：	安全衛生推進 リーダー： 対症後診者： 助産師(有識者)：	OSHMAS 衛生管理室 OSHMAS 衛生管理室

危険作業分析				リスク評価				リスク低減対策				対策実施後のリスク低減確認(最初の作業・設備稼働時に実施)			
No.	危険作業項目	頻度 (回/年)	時間 (分/回)	作業 形態	リスクの内容 (発生に至る要因として「～等の(～して)た」にて記入)	災害の 発生 の要 素 (SS)	災害の 発生 の可 能 性 (P)	暴露 の頻 度 (F)	暴露 の範囲 (S+P+F)	リスク レベル	対策内容 (法別制がある場合、該当条項等も記載する)	対応リスク (予想) (S+P+F)	対応リスク レベル	残留リスクへの対応 (対応内容を安全作業手順書に明記)	
1	振棒機のアレーカーと、張込ラインのハルマノコウガ外を裏返し養生板を掲げる	5回/年	5分/回	8 (作業員2名)	露出した充電部に触り感電する	13	6	2	1	9	露出した充電部がある場合は絶縁を有する手段を適用する	9 (6+2+1)	II	電圧は充電部があれば、絶縁を有する状態と着用する。充電時、停	
3	除染濃度(189%以上)・炭化水素濃度(10ppm以下)を測定する	5回/年	5分/回	8 (作業員2名)	タンク上部から測定する際、のぞき込みすぎて転落する	8	6	4	1	11	安全帯を適用する	11 (6+4+1)	III	タンク上部から測定する場合、必ず安全帯を着用する。 降	
4	液面計の取蓋を外す	5回/年	10分/回	8 (作業員2名)	破損したスプリングが飛んで顔に当たる	6	3	2	1	6	ヘルメットシートを適用して対面からゆっくり裏蓋を外す	(+ +)		対応予定日:	
4	リング・コンステンスプリングを外す	5回/年	5分/回	8 (作業員2名)	リングを取り外し中に、リングが飛んで顔に当たる	6	1	2	1	4	ヘルメットシートを適用する	(+ +)		対応予定日:	
						6	1	2	1	4	リングの正面に立たない	(+ +)		対応予定日:	
						4	3	2	1	6	保護手袋を適用する	(+ +)		対応予定日:	
5	テープカバーを外し、テープ巻取りを抜く	5回/年	15分/回	8 (作業員2名)	破断したフロートテープが顔に当たる	6	3	2	1	6	ヘルメットシートを適用する	(+ +)		対応予定日:	
6	フロートテープを取外す	5回/年	15分/回	8 (作業員2名)	フロートテープで手を切る	4	3	2	1	6	保護手袋を適用する	(+ +)		対応予定日:	

災害の型	災害形態	1. 定常作業 2. 異常時の対応 3. 日常点検 4. 定期点検 5. 緊急時の対応 6. 試運転調整 7. 準備 8. 定期保全 9. 日常保全	災害の可能性 (P) 可能性 可視化が容易で悪い (いつか必ず起きる) 可能性が高い (いつか起きる) 可能性もある (起きるかもしれない) 可能性低い (起きるとしてもまれだ)	基準 評価点 6 4 2 1	安全対策が偏っていない 注意がけが安全対策の状況 安全対策が偏り不備で無いに等しい 相当の注意を払っていない 比較的時間に必要である安全対策が偏り 作業環境不良 つながりしている、ケガ、疾病につながる 安全対策偏りにより接近困難、つながり しているケガ、疾病につながる	総リスク点 14~20 11~13 8~10 1~7	対 策 直ちに中止または改善 優先的に改善 計画的に改善 費用対効果を考慮し、 適時改善	優先度 高 ↓ 低	対策内容が確定しない場合でも、書きを記入 5. 実現できる 4. 努力すれば実現できる 3. やや困難であるが実現可能 2. かなり困難である 1. 実現は無理である	実現性
	1. 熱傷 2. 炎傷 3. はさまれ、巻きこまれ 4. 切れ、くずれ 5. 激突され 6. 飛来落下 7. 転倒 8. 転落 9. 破損 10. 交通事故 11. 中毒 12. 腰痛 13. 感電 14. その他()									
災害の程度 (S)	災害の程度	程度 評価点 致命傷 10 重傷 6 軽傷 4 けが 3	基準 作業頻度 評価点 頻 4 時 4 日 1 月 1 年 1	作業頻度 評価点 頻 4 時 4 日 1 月 1 年 1	基準 毎日1回以上、毎10分間も 毎日1回以上、毎10分間も 毎日1回以上、毎10分間も 毎日1回以上、毎10分間も	リスク 低 中 高	本質的対策：危険作業そのものの除去、変更など 工学的対策：機械・技術の改造、安全対策装置の導入など 管理的対策：手順書の整備、看板の設置、教育の実施など 教育的対策：安全・健康意識の醸成、危険回避の啓発など 法的対策：法令・基準で定めた規制の適用など	実施順位 A: 災害リスクが高い、即改善を要するもの B: 放置すると災害につながるもので、 計画的に改善を実施するもの C: 適時実施するもの	総リスク点及び低減対策の実現性・効果性等 から判断して対策の実施順位を決定	

報告書
実施報告書
アセスメント

[illegible]

※危険要因、作業自体が無くなり災害につながらる可能性がなくなった場合は評価レベルを「I」とする。

[illegible]

※対策実施後のリスク評価が許容可能なレベルになるまで対策の立案⇒実施を繰り返してください。

帳票番号: 4402004-B